

2019（令和元）年度 緊急DUOリーグ会議 議事録

◆DUOリーグ会議

【日 時】 2019（令和元）年 12月 15日（日） 18：00～20：00

【場 所】 本郷高等学校 第二PC室

【出 席】 35クラブ(氏 名)

都小石川（前田）	昭和一（永井）	
京華（小金丸）	都向丘（倉口）	筑波大附（三輪）
学習院（玉生）	豊南（塩田）	本郷（岩野）
城西（嶋野）	豊島学院（早川）	郁文館（井上）
駒込学園（宮坂）	棠鴨（馬場）	立教池袋（橋本）
獨協（新井）	淑徳棠鴨（石原）	都竹早（蓑輪）
日大豊山（海老根）	都文京（鳥海）	都足立（井上）
都江北（大原）	足立学園（遠藤）	都荒川商（関根）
中大高（加藤）	都千早（井手口）	都足立新田（田中）
貞静学園（杉本）	都淵江（栗山）	都豊島（浅井）
都青井（石橋）	FC西棠鴨03（岸）	文中選（井上）
都足立西（佐々木）	都立足立東（和田）	

【欠 席】

【オブザーバー：選手】

【オブザーバー：一般】

齋藤（都・千早） 岸（サロン2002）

【議事録作成者】

岸（サロン2002）

【報告】

理事会報告：2019年12月1日（日）18：00～20：30 於本郷高等学校 第二PC室

岩野（チェアマン）、小金丸・玉生・遠藤（学識経験理事）、井上（管理部長）、大塚（技術委員）

嶋野（地区トップリーグ）、海老根（Tリーグ）、杉本（事業部長）・岸卓巨（事務局長）

宮坂（駒込）、蓑輪（竹早）、竹市（足立定時制）

1) さまざまな問題について

- ①前期リーグにていつまで経っても結果がメーリングリストで流れない。さらにHPの更新もされない。
- ②参加費の振込が12月になってもなされない。そもそも連絡がつかない。
- ③試合当日に対戦相手チームがあらわれないどころか、その後、どんな連絡手段を使っても連絡がつかないばかりか謝罪の言葉もない。
- ④試合当日になって選手の人数が揃わなくて試合不成立となってしまった。
- ⑤昔から言われていることだがグラウンド提供ができていない。1節を主催する→この意味がわかっているだろうか？
- ⑥時期顧問への引継ぎがうまくいってない。それに対してチェアマンからのDUOリーグ理念の説明がなされていない。怠慢。

これらを改善するために今回、臨時DUO会議として加盟クラブに集まってもらった。DUOリーグの理念と当事者意識の再確認としていきたい。

理事会にて“中塚先生の思い”と“出張サロンin神戸”を読み合わせしながら確認したが、あまりに時間がかかりすぎたので、今回のDUO会議では事前にメーリングリストに流した通り、読んでDUO会議にのぞんでもらっているとるので、以下に伝えたいことをまとめる。

日本のスポーツと本来のスポーツのあり方

<p>「プレイ」-「スポーツ」-「競技」-「戦争」</p> <p>「プレイ」：“やりたい時にやり、やめたい時にやめる自由さ” 要は遊ぶ楽しさ。</p> <p>「スポーツ」：プレイそのものが楽しい、やめられない位楽しい。</p> <p>「競技」：スポーツのその先にある段階。プレイの結果、勝った負けたの部分が目的になる活動</p> <p>「戦争」：国の旗を背負って戦う（例：ワールドカップ）学校を代表して戦うリーグ戦は？（競技と戦争の間？）</p> <p>この4つをひっくるめて“スポーツ”という言葉を使っているから「プレイ」と考える人と「競技」と考える人がいる。</p> <p>皆さんの部活はどうですか？本郷は残念ながらプレイの部分を持っている人を排除しようとしているように感じる。競技志向の選手だけを入部させていて一種の洗脳をしているのかもしれない。それでもプレイを求めている本郷の部員もいまだにいる。部活の中に「プレイ」と「競技」とを考える人がいるということが大前提。</p> <p>100人の部員がいる部活が1つのチームとはならない。クラブの中で「ニーズ」にあった適正人数のチームが複数あってその複数のチームをまとめて100人のクラブが存在する。クラブとチームの違いを理解してほしい。</p> <p>【参照：p 12 (1) スポーツのあり方 (2) スポーツ集団のとらえ方】</p>
<p>「ピッチの中」-「ピッチの外」-「実社会」</p> <p>実社会の中でいらいらしながらストレスを感じて生活している。そこからスポーツ空間に入っていく。このスポーツ空間をピッチの中。同じルールのもと、「プレイ」して勝つか負けるかわからないハラハラした気持ちになる。イライラ空間からハラハラ空間へ。ハラハラする単位は“チーム”。10対0、20対0ではお互い楽しくない。同じレベル・同じニーズを持っている人とゲームをする。だから面白い。</p> <p>試合が終われば更衣室・コンビニ・居酒屋へ行く。これがピッチ外。クラブを育てるのはこのピッチ外。要するに部室でうだうだしている時間は大事。→クラブを育てるためにはDUOの企画、例えば靴磨き講習会のようにピッチ外の活動を盛んにしていかないといけない。</p> <p>【参照：p 13 (2) (3) スポーツ空間のとらえ方から】</p>
<p>単発的なトーナメント、どこかに集まって大会をやる、それに向けて直前に合宿を組むというスタイルではなく、日常生活の中で、歯磨き感覚でスポーツをやり、歯磨き感覚で勉強もやる。そうすれば途中で「引退」なんて得体のしれない言葉は出てこない。アマチュアに引退なし。これが本来のスポーツでは？</p> <p>【参照：p 14 (5) ライフ・マネジメントの観点から】</p>

DUOリーグの試み

<p>DUOリーグの理念</p> <p>とにかくDUOリーグは参加すればゲームができるよというだけじゃなくて、理念を達成するための方法がサッカーのゲームであるという考え方。“サッカーの生活化” “アマチュアに引退なしを实践する” というのがDUOリーグが始まった原点。これを忘れてはいけない。だから1カ月で一気にリーグを消化してしまおうとか、連戦でとにかくリーグを終わらせよう、というのは理念とは全く違う。月に2試合の消化を目標にしていきたい。</p> <p>また、学校施設の共有。P16のようにグラウンドを持ってないクラブと持っているクラブで助けあって定期的なグラウンドの確保。これが昨今のグラウンド問題に欠けている部分です。</p> <p>【参照：p 15・16 (1) (2) DUOリーグの理念・誕生】</p>
<ul style="list-style-type: none">・オーバーエイジ（1996年後期より）・受益者負担・リーグ参加の徴収（1996年後期より）・ユース審判（リーグ立ち上げ当初から：審判評価システムは2002年前期より） <p>プレイヤーたちにも当事者意識を持ってもらうためにも、今後、ユース審判を強く推奨します。よって強制的にユース審判を実施していこうと思います。日程調整会議時の第2節と第4節の2節はユース審判デーとし、全チームがユース審判を1回は経験してもらう。</p> <ul style="list-style-type: none">・プログラムの作成（2000年より）

・会費（DUOリーグ選手登録費）の徴収（2000年より）

・加盟費（2000年より）

この数年後、岩野が加盟費って何？選手登録費って何？ってことでDUOに疑問を持ち、一時DUOの参加を辞退したこともあった。受益者負担、加盟費をみつめることでリーグ事業以外の企画などをまかなうことができるということなどがp19・20あたりに書かれているので是非参考に読んでほしい。

・組織の立ち上げ・チェアマン兼事務局→「広報担当」「競技担当」「会計担当」（2000年より）

・IT革命・HP作成（2001年より）

リアルタイム速報が選手も知りたい情報。遅くとも3日のうちにメーリングリスト・HPの更新をしてほしい。

・FCDUO構想（2001年より）

・DUOリーグ通信（岩野チェアマンになって停止状態にあるが再開していかなければいけない）

グラウンド提供、主催クラブなどをこちらでも共有していきたい。大河原さんのようにグラウンドの空き情報もどんどん共有していきたい。ここも加盟クラブの当事者意識の問題。

さまざまな問題に地区トップやTリーグとつながり、DUOリーグ自体がオフィシャル化したこと。プレイ・スポーツのDUOリーグから競技志向の強いリーグに変遷していったこと。それによって、リーグに入れば試合をする・試合ができると勘違いしているクラブが増えてしまったこと。入ってしまえば、事務局などは有志が勝手にやってくれてあとはルールに乗ってれば勝手に進んでいる。完全に当事者意識の低下どころか、当事者意識がゼロになった原因。DUOリーグはオフィシャルとローカルの狭間にあるリーグと思ってほしい。オフィシャルであれば貞生・本郷合同チームなんてのはありえない。ある程度ローカルだからこそリエントリーや交代数自由などができる。ガチガチに規則で縛られないためには自分たちで運営するという意識が大事。

P23・24 2001年の時点で合同チームについて提言している。もともとは京華・筑波の合同チームもあった。

リーグ加盟クラブの条件（P34～）

・指導者が志を同じにする

・ここに入ったらリーグ戦ができるという気持ちだけならやめてください。DUOリーグのメンバーになるとは理念を共有して、つまり**運営の当事者**となること。DUOリーグのメンバーになるということは当事者になるということです。リーグ戦もカップ戦もあっていいと思う。リーグには加盟しないけどカップ戦には参加するチームがあっても全然かまわないと思う。リーグの一員になるということは、当事者になるということ。これはハッキリ言って大変なこと。よって当事者になれないのであればカップ戦のみの参加が手軽に競技会に参加する道筋じゃないか？

決められたところに大人がしっかりついて、ゲームを行なう態勢をそれぞれで作る。用意できない場合は、例えば50人いるけど1チームしか出られないというのは当然出てくる。だからリーグのメンバーになるのは大変なのだ。リーグのメンバーになるのはその中のある一定の資格をクリアしたものである。

（別資料：2001年10月例会報告）

都心で行われているDUOリーグでも、グラウンドを持っていないところには大きなメリットがある。しかし、グラウンドを用意できない代わりに「自分たちのできることをする」のが前提。運営の当事者になるというのが大前提。

（別資料：2001年11月例会報告）

自分たちの意思でリーグへ参加するというのは底辺が切り捨てられる懸念がある。運営の当事者にはなろうと思わないけどゲームやりたい者が切り捨てられるのではないか？→運営の当事者になろうとしないものはリーグに入るべきではない。フェスティバルなどの単発イベントに参加すればいい。

2001年当時の発言ではありますが、これは今2019年のDUOリーグでも同じです。いろいろと理念とか考えはあると思います。クラブとチームの考えもそれぞれの指導者がいればそれだけの指導論もあります。ただ、この最低限の運営の当事者、ということ。これだけは共通でないとリーグはまわらない。今まで何とかやってこれたのは事務局を外部（サロン2002）に任せていられたから。来年度よりサロン2002に手を

引いてもらうこととなった。当事者意識をあげていくために！

・DUOリーグの実務（p35）

DUO会議は誰でも参加できて、高校生でも保護者でも発言権を持つことはできる。ただ採決に加わることができるのはクラブ代表者のみ。

運営は、チェアマン、会計担当・競技担当・広報担当

これを当事者意識をアップするために、再度当事者意識を持ってもらうために大改革をしたい。

【議題 1：今後のDUOリーグについて】

➤ DUOリーグの現状を踏まえて、各クラブ代表者より意見表明があった。

昭和一：当事者意識は大切だと考えている。もっと集まる機会や話し合う機会を増やして、業務を分担して行きたい。

向丘：今年からDUOリーグに参加させていただいている。グラウンドがある学校に任せきりであった。自分自身当事者意識が足りなかった。

筑波大附：岐阜県でGリーグに関わっていた。比較してみて感じる改善策は以下の通り。

- 2月に予定を組む際に、各学校のスケジュール一覧を作成しておく。
- グラウンドの一覧を作っておく。
- DUOリーグを改善していくための組織を作る。人の入れ替えなどもあるため、同様の問題は今後も起きる可能性がある。

豊南：運営面では協力できていなかった。今後、反省し協力していきたい。

豊島学院：グラウンドがないため、様々な学校にお世話になっている。各チームが当事者意識を持つことが大切なのは分かっているが、なかなかうまくいかない。誰かに1人に負担がいくことは良くないが「各リーグ責任者」の意識・役割を見直した方が良い。

巢鴨：数年前に顧問交代時に試合の日程に関して迷惑をかけてしまったことがあった。初心を見返し、改めて緊張感を持っていきたい。グラウンド情報の共有をさらに有機的にできればと思う。

立教池袋：前チェアマンの文章を何度も読み返した。クラブ内でDUOリーグの精神が反映できていなかったことを反省した。来年審判部を担当するが、より多くの高校生に審判をやって欲しい。結果がなかなかgoal noteにアップしていない場面があった。「〇日以内にアップする」などのルールがあった方が良い。今後も大学のグラウンドなど積極的に提供したい。

獨協：3年前からDUOリーグに参加しているが、初めてDUOリーグの理念を認識した。Goal noteをアップするなど当事者意識をもっとしっかり共有するための仕組みを作っていく。

淑徳巣鴨：やるか・やらないかの意識の問題。忙しいので忘れてしまうこともあるが、リーグ責任者が声かけをしながら協力すればそんなに難しい問題ではない。

竹早：FC西巣鴨03の試合の試合ではご迷惑をかけた。私自身は学校が変わってもずっとDUOリーグに関わっている。規模が大きくなり、顔を合わせる機会が減ってしまったことも当事者意識が薄れた原因に感じる。

文京：理念に対する意識が薄かった。まずは当事者意識をしっかりと持つ。初めてDUOリーグに関わった方でも役割がより明確に分かるようにする必要がある。

足立：自分自身も当事者意識が薄かった。グラウンド情報を提供するのが遅く、相手チームなどに迷惑をかけた。複数の部活がグラウンドを使っているため調整が難しい部分はあるが、よりスムーズに運営していきたい。

江北：自クラブ内で他の顧問や生徒にも当事者意識を広げていきたい。

荒川商業：リーグ戦は非常にありがたい。「うっかり」のミスが起きないようにコミュニケーションをしっかりと取ること。試合前に連絡を取り合うなどの仕組み・ルールも作る必要がある。

立教池袋：DUOリーグに加盟した当初は中塚前チェアマンから理念について説明があり緊張感を持ったが、薄れてきていた。グラウンドを持っているクラブにも甘えていた。特に駒込学園には迷惑をかけた。「オフィシャル」な大会に出場している意識と理念を再認識してやっていきたい。生徒にも意識をしっかりと持たせる必要がある。

- 千早：DUO リーグに参加して 2 年目になるが試合結果報告など遅れる場面があった。DUO リーグの意識をより多くの人にも理解してもらいたい。今回は、外部指導員の斉藤さんにも参加してもらった。日程調整については、雨の日の対応（予備日など）が十分に話し合えていなかった。
- 足立新田：責任感を持って、協力していきたい。
- 淵江：社会人 1 部リーグの運営にも携わったことがあったが、ホーム&アウェーを明確にして、グラウンドを確保するための責任分担をより明確にするのはどうか。
- 豊島：選手が運営にも携わりやすいリーグである。選手に自立を求める分、指導者もしっかりしなければいけない。
- 青井：今年から DUO リーグに携わっているが、当事者意識が薄くご迷惑をおかけしていた。
- FC 西巣鴨 03：教員ではない立場でかかっているが、参加させてもらって有り難く感じている。1 節グラウンドを取ることは頑張っている。学校運営委員なども務めているが先生という職業はブラックな職業であることは感じている。大変なことは理解できるが、最低限やるべきことをやる必要はある。納入期限になっても半数近くの学校が参加費を払っていないなど驚くこともある。審判や試合結果報告を含めて高校生をもっと運営に巻き込んだ方が良いのではないかと。DUO リーグという良い場があるので、立派な社会人として育てて欲しい。
- 足立西：至らない部分があったが、改めて理念を見返して当事者意識を持ってやっていきたい。
- 足立東：参加して 2 年目である。公式戦だけでは試合数が少ない分、有り難く感じている。一方でリーグに入れば試合数が増えるということで他のクラブに頼っている部分があった。グラウンドを持っている分、リーグに貢献していきたい。

【議題 2：組織図の再編について】

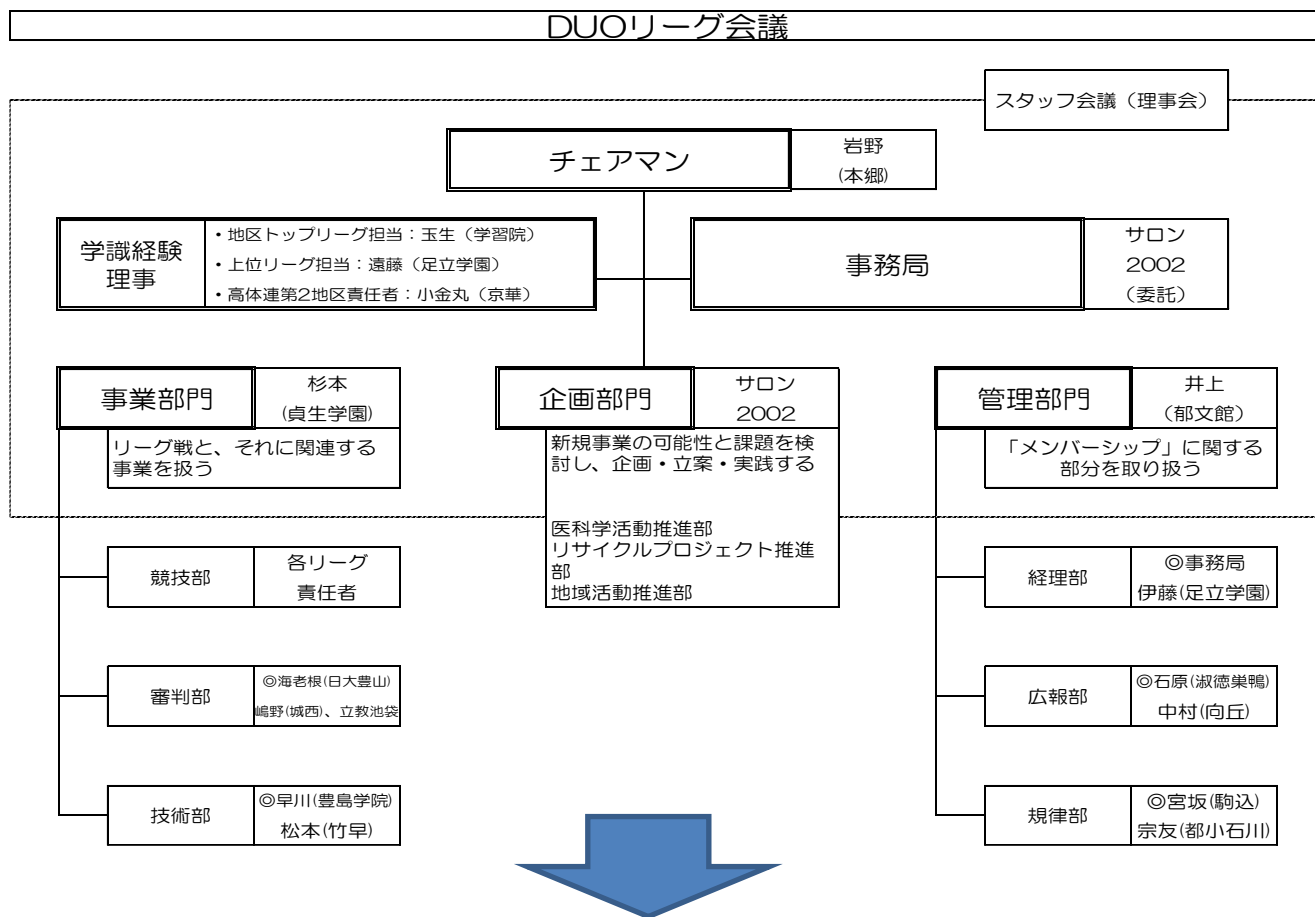
- チェアマンより組織図の再編およびサロン 2002 への業務委託見直しが発議された。
 - ✓ 各リーグ加盟クラブが当事者意識を持って運営することが DUO リーグの理念である。私がチェアマンになり当事者意識を薄めてしまったことを反省している。サロン 2002 に外注している分、運営に関わらなくても試合に出られてしまう状況になっていた。
 - ✓ 現在、サロン 2002 に事務局と企画部を委託しているが、来期はサロン 2002 への委託を行わず、DUO リーグ加盟クラブ自身でリーグ運営を行い、当事者意識を持てる状況を作ろうと考えている。そのために、組織図を再編し、全クラブが何らかの役割を持つようにする。
 - ✓ 前チェアマンの中塚氏はもともと全ての運営を自ら行っていたが、私の場合はチェアマンを引き継いだ際に既に事務局はサロン 2002 が実質的に担っている状況であった。そのため、私自身、事務局業務などについて分からない部分が多い。1 度自分で経験することで、どのような業務が必要かどうかを見直し、それぞれの業務を精査した上で改めて外注する可能性はある。現在の教員は、他の業務も忙しいため、今後ずっと自分たちだけで運営していけるとは考えていない。
- チェアマンからの意見に対して出席者から意見が出された。
 - ✓ サロン 2002 への業務委託を来期行うか多数決を取る場合は、「賛成」・「反対」に加えて、「保留」という選択肢も設けて欲しい。（出席クラブ）
 - ✓ 自分たちだけ運営を行う場合、会計監査はどのように行うか考える必要がある。（出席クラブ）
 - ✓ サロン 2002 への業務委託を行わなかった場合、業務内容についてサロン 2002 に質問することもできないか。（出席クラブ）
 - 適宜、アドバイスは求められるようにアドバイザー契約のような形は必要だと考えている。（チェアマン）
 - ✓ 新たな組織図で割り当てられた役割の内容が十分に理解できていない。今後どのように進めていく予定か。（出席クラブ）
 - 組織図の再編が承認された場合、次回 2 月 16 日の DUO リーグ会議までに各担当で引き継ぎのための打ち合わせを行って欲しい。岸事務局長には、これまでの事務局業務の内容について、書面に

まとめてもらい、それをもとに各担当でやることを考える。(チェアマン)

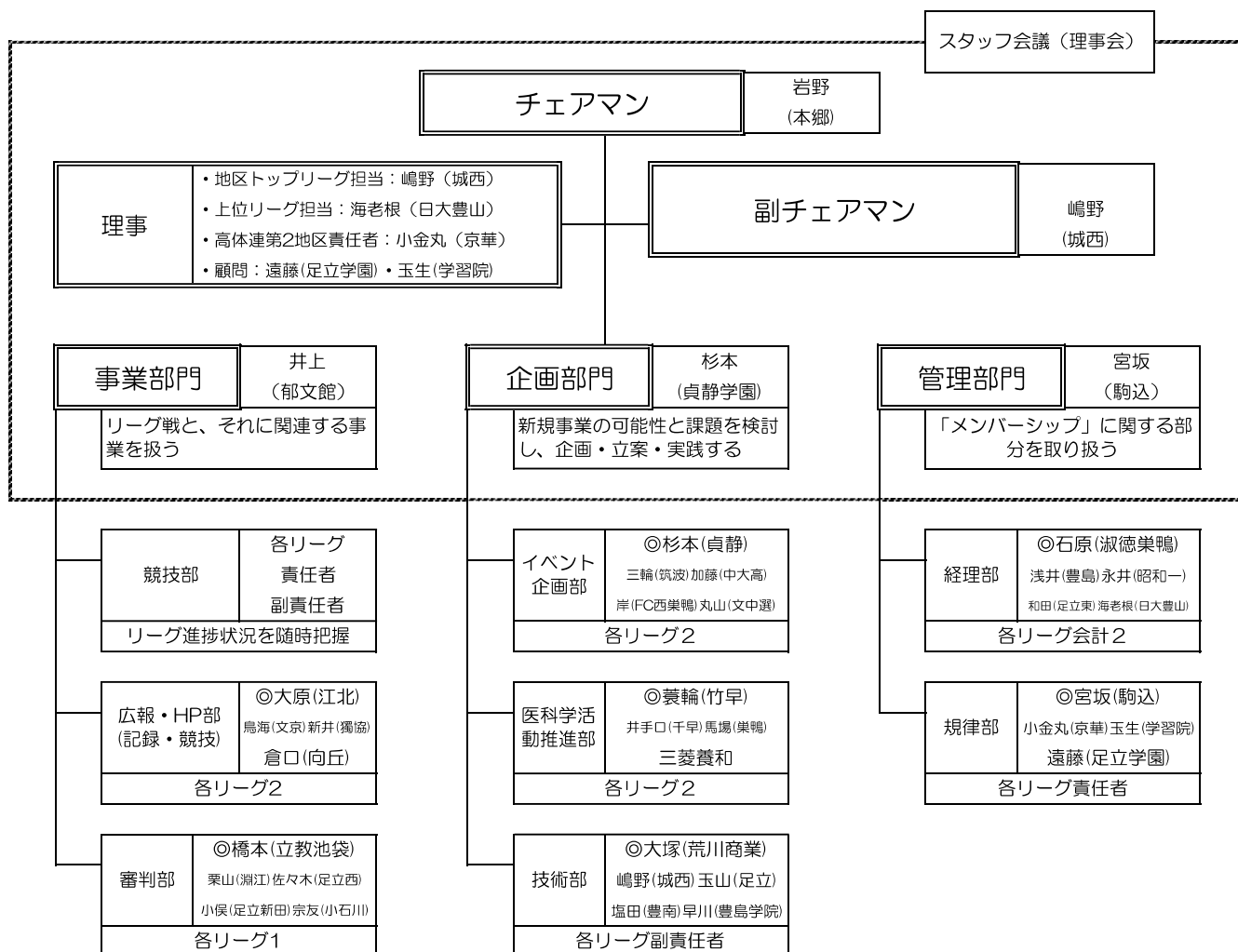
- ✓ サロン 2002 としては、前チェアマンの中塚義実氏が理事長を務めていることから DUO リーグへの思い入れがあり、今後も関係性を継続していきたい希望はある。DUO リーグからの委託費 20 万円が、サロン 2002 の大切な収入になっていることも事実である。しかし、現在の DUO リーグの状況を見ると、何度催促しても参加費が振り込まれなかったり、試合結果が報告されないなど、事務局業務に必要以上の労力がかかっている。また、DUO リーグで何か問題が起きた際にサロン 2002 の信用も落とすリスクがある。このような現状を踏まえて、DUO リーグ理事会に対して、サロン 2002 への今後の業務委託について改めて検討して欲しいと依頼した。現在は、各クラブ内での課題（グラウンド確保の問題など）と全体運営についての課題が一緒くたに語られているが、来期もサロン 2002 に一部の業務は引き続き委託し、まずはクラブ内の課題から解決するなどの選択肢もあるかと思う。(サロン 2002)

- ✓ 「来期、組織図を改編し、サロン 2002 への業務委託を行わない」ということがチェアマン案のような形で議論されているが、チェアマン個人の意見ではなく、理事会としての意見である。(出席理事)

- 「来期、組織図を改編し、サロン 2002 への業務委託を行わない」という案について、出席クラブに賛成・反対・保留を問い、賛成多数で可決された。(賛成 26 票・反対 3 票・保留 4 票)



2020 DUOリーグ会議



それぞれの担当でプロフェッショナルは必要であるが、その人がすべて行うことは避けなければいけない。現状、事業部長やチェアマン・事務局に大きな負担がかかっている。

事業部門：【競技部】

①責任者・副責任者

1部リーグ代表 (2クラブ)、2部リーグ代表 (それぞれ2クラブ・合計4クラブ)、
3部リーグ代表 (それぞれ2クラブ・合計4クラブ) 責任者・副責任者という立ち位置

②HP担当 (記録・競技) 各リーグから2クラブ

【審判部】

現状で複数クラブが必要か？

審判講習会だけでなく技術向上の講習会やユース審判を育てる工夫など話し合いが必要？

ということは上記、競技部に各リーグから審判を1クラブは確保したい？

【技術部】 副責任者がここを担当

リーダー研修会 一番ここが難しいイベントになってくると思われる。ここが動けると今回の八丈島で行われたトレーニング講習会を指導者へ還元することも可能。また選手に落とし込むことも可能か？

ということは各リーグで1クラブは技術部への登録が必要。

企画部門：①後期リーグ・後期イベント担当 各リーグ1～2クラブ

②医科学活動推進部 (4クラブ)：テーピング講習会、栄養講習会、メンタルトレーニング講習会、その他講習会

上記組織図を見てわかる通り後期リーグについては一旦休止とする。当事者意識が向上した時に、再度再開できるようにしたい。今は当事者意識を上げることに焦点をあてたい。た

だフレキシブルリーグやワンデーカップなどは企画として残していきたい。10月リーグとか、11月リーグのようなリーグ戦を行っていくようにすることで、文中選なども今までのように参加できる。

管理部門：①経理部：各リーグ会計担当 各リーグ1～2クラブ
事務局部分の大きな分野を占めていると思われる。

②広報部：基本的にプログラム作成だったため今後はメンバー表監視とする。事業部のHP担当が行う。

③規律部：各リーグ責任者がこれをまかなう：退場や問題行動があった場合にすみやかに召集して会議を行なう。

【今までの事務局業務の割り振り】

(1) DUO リーグメーリングリストの運営と管理 → チェアマン・副チェアマン・競技部

→2月、7月のDUO リーグ会議でのスタッフ名簿確認。メーリングリストの追加・削除などは随時対応。

(2) DUO リーグホームページの運営と管理 → 広報・HP部

→前期/後期リーグスタート時にリンク先(goalnote)の変更を株式会社SIX(本多氏)に依頼。

(3) DUO リーグ試合結果集計フォーマットの作成 → 2つの部署に分割

→前期/後期リーグスタート時にgoalnoteを作成。各リーグのカレンダーを取りまとめ、アップロード。メーリングリストで編集権限付与申請のステップについて案内。申請があったものを随時承認。 → 広報・HP部

→会計記録フォーマットをメーリングリストで送付。 → 経理部

(4) DUO リーグ通信の編集、配信 → チェアマン

→現在、発行なし。

(5) DUO リーグ現預金出納簿・銀行通帳・DUO リーグ公印などの管理、保管 → 経理部

→メーリングリストで参加費の振り込み等を案内(4～5月)。随時取りまとめ。全クラブが締め切りを守り振り込みば、入金確認・取りまとめ作業は1度で完了するが現状では何度も記帳・リスト更新・リマインドをする必要がある。

→各リーグの会計担当から提出されたリストをもとに会場運営費・審判費をまとめ、リストを作成(7～9月)。未提出リーグへのリマインド。2月のDUO リーグ会議に向けて支払い準備。

→順位決定戦の結果を取りまとめ、会場運営費・審判費の支払先をリストに追加(8月～9月)。未報告試合についてのリマインド。

→DUO リーグプログラム印刷代、DUO リーグアウォーズ賞品代、理事会出席謝金などの支払い。

→決算作業(1月末)

(6) 理事会・DUO リーグ会議の議事録の作成、管理、保管 → 輪番制(立候補など)最初はチェアマンがやる

→各会議ごとに議事録を作成。

(7) DUO リーグの理念を具現化するための各種プロジェクトの企画 → 企画部門全般

→イベントデーなどに合わせて講習会などを企画・実施。

(8) DUO リーグアウォーズ賞品の購入、発送 → チェアマン・事業部長

→前期DUO リーグの結果(優勝クラブ・MVP・得点王など)を取りまとめて、靴削家の佐藤いちろう氏にトロフィー制作およびアウォーズ会場への発送を依頼。1部リーグ優勝トロフィーについては前回優勝クラブに連絡し、佐藤氏の工房への発送を依頼するか、回収して事務局から発送する。

→佐藤氏からの請求に基づき、制作費を振り込む。

→優秀審判賞が選出された場合は、審判ウェアセットを手配。

【議題3：グラウンド提供の認識と再確認】

➤ グラウンド提供の認識についてチェアマンより確認があった。

2018年DUO会議参照

確認事項②；大会規定の再確認

・試合前のメンバー表の交換を徹底する(メンバー表を持参していない場合、手書きで作成しメンバー表が交換されるまで試合は開始しない)。メンバー表には先発メンバーだけではなく、リザーブメンバーも明記する。プログラムに掲載されているメンバー表のフォーマットが活用できる。

- ・試合記録の作成は「審判担当クラブ」が責任を持つ。試合記録のメーリングリストへの配信や WEB サイトの更新は「会場クラブ」が責任を持つ。会場クラブの負担が大きい場合などは、ホームチームが記録発信を行うなど当該クラブで協議の上、臨機応変に対応する。
- ・各試合毎に DUO リーグより支払われる費用は、「審判担当クラブ」への審判手当 2000 円と「会場クラブ」への会場手当（石灰等必要備品代として）1000 円とする（「主催クラブ」手当ではない。「主催クラブ」とは、「会場クラブ」が務めることを原則とし、場合によっては試合の日程調整などを行った会場クラブ以外のクラブが務める場合がある。

【岩野が考える変更点】

試合結果報告は主催クラブが行なう。会場が好意で行ってくれる場合はあるとは思いますが、原則は主催クラブが行ないましょう。主催クラブとグラウンド提供クラブをはっきりと分ける必要があるのではないかと。結果、3 試合すべてがグラウンド提供クラブが主催であれば、それは 3 試合とも結果報告ならびに HP の更新をやってもらえればいいが、それでは負担が大きすぎないか。また、主催クラブは手当なし。グラウンド提供した会場校への 1 試合 1000 円の手当がある。

実施要項の参加チーム資格には、『4) グラウンド…試合会場を1節だけ主催できる』とある。この1節とは1試合ではない。参加チームが10チームのリーグであれば1節は5試合。よって「5会場提供すること」ということになる。チーム数÷2が努力目標で、最低3会場は提供することとする。今年度については別紙参照。

【議題4：2020年度前期リーグ期間の延長と後期フレキシブルリーグの廃止について】

- チェアマンより2020年度は、当事者意識を持った運営について見直すために、前期リーグ期間を通常の3月～7月より延長して3月～9月開催（2部3部は8月まで。9月は順位決定戦）として、後期に実施していたフレキシブルリーグを廃止することについて提案があった。
- 出席者よりいくつかの賛成意見が寄せられた後、多数決を行い、チェアマンからの提案が可決された。
 - ✓ リーグの期間を伸ばすことは賛成。3月は試合を行うことが難しく、実質的に試合が行えるのは4月以降になっている。終了を9月までに伸ばすのは良いと思う。（出席クラブ）
 - ✓ 後期リーグの在り方を変えていく必要性は感じている。（事業部長）
 - ✓ 後期リーグの改善をしないといけないと感じた。9～11月はグラウンドを提供できない。（出席クラブ）
 - ✓ 前期リーグの期間を延長することについては賛成だが、経理の集計の期間を確保して欲しい。12～2月は入試などでバタバタするため、10月ごろまでには前期リーグを終了し、各リーグで会計資料作成をお願いしたい。（経理担当）
 - ✓ 来期より新たな役割でリーグ運営に関わる人が多いことを考えると、3月は引き継ぎ期間に当てて、4月から本格的にリーグ戦を開始する方が良いのではないかと（事務局）

【議題5：一方的な当日の試合キャンセル】

- 規律部と話し合い、悪質な場合は、不戦敗扱いの0-3に加えて、勝ち点2の没収とすることがチェアマンより伝えられた。

【議題6：大河原氏の特別賞について】

- 筑波大学附属高校OBの大河原誠二氏への特別賞授与について、チェアマンより提案があり、全会一致で可決された。グラウンド提供について、これだけリーグに貢献している人はいないし、DUOリーグの立ち上げの理念を理解し、会場を出し合う、という原点を再認識させてもらったという功績をたたえ授与する。

【議題7：DUO会議日程について】

- チェアマンより元々12月に実施していたリーグ戦総括の会議を復活させることと、より円滑なリーグ運営を行うために、リーグ代表者が顔を合わせる機会を増やすことについて提案があり、合意された。
- 会議日程としては以下の通り。
 - ①2月16日 [4月からのリーグ戦に向けて]
 - ☆3月 [日程調整会議・各リーグにて実施] ←全体で集まって実施する

☆4月 [各リーグ再集合して新しい顧問との顔合わせ&役割分担の確認など]

③6月 [現時点で起こった問題点・課題点をリーグ責任者・副責任者から報告。チェアマンからの報告]

(7月から6月への移動には日程再調整会議も含まれています)

④10月or11月 [リーグ戦総括、各賞決定]

- 次期副チェアマンの嶋野氏より、会議の回数が増えることを踏まえて、出席者に会議費を支払うことと委嘱状を出すことが提案された。委嘱状の文案は次期副チェアマンが作成することになった。会議費については、財務状況を確認して、予算案とともに次回以降の会議で審議することになった。

【議題8：プログラムの廃止】

- チェアマンよりプログラムの廃止について提案があった。プログラムがメンバー票の代わりになることはほとんどなくなった。また、選手の名前と顔写真が入る紙ベースの物、という位置づけは非常にいいと思うが、そう思っているチームが減少。実際にプログラムを購入しているクラブが少なくなっている。サロン2002の事務局撤退による事務作業が増える代わりに、一つの事務作業が減るという意味でもプログラムの廃止を考えている。
- 出席クラブから意見が出された。
 - ✓ 冊子としてプログラムを無くすことについては賛成。メンバー表の作成は継続した方が良い。
 - メンバー表自体は継続する。ネット上に取りまとめて、URLも共有する。(チェアマン)
 - ✓ メンバー表の提出も義務付けているようにゴールノートの選手名入力についても各クラブの義務とした方が良い。

【議題9：トロフィーについて】

- チェアマンより前回の理事会では時間切れにより話し合いができなかった。2月の理事会で話し合い、次回のDUOリーグ会議で提案したいとの報告があった。

以上